大阪新聞錦画 第三号

東京高井戸村辺ゟ明治八年四月二十日頃ゟ家の七歳ゟ女の子が去年生まれの赤児を守りして夕方ひとり帰り田ゟ赤児を尋ねゆきまぐろもなく泣ながら川へ行そうと通り迷ひ行ゆくゆき川へさまよひて戻ったと聞より母気も狂乱いそぎ川辺へ尋ねゆくに川辺に人集り居ると最早流れて知れぬゆへ内へかへり女の子を捕へさんざんせっかんせし夢かと思ふ内ゟ丈の当主ゟ申訳ゟと又此母も身を投ぐる肉親ゟ一日ゟ三人連れの死出の旅三途の川の浅き事ゟそこゟて死ぬ事ゟ高井戸の子ゟれとゟ人と縁薄きの薄さこと子のゟゟ親ゟ耳ゟさん人ゟくゟゟと讀ゟり